

# 第11回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2021)

大会長 新里 昌一

令和3年10月30・31日の2日間、福島県福島市の福島県立医大保健科学部の会場とWebでのハイブリッド開催を行いました。この学術大会は、日本診療放射線技師会東北地域技師会ならびに日本放射線技術学会東北支部との合同開催となります。開催にあたりまして、両団体においては格別のご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、多方面より多くのご支援とご協力を賜り、関係者各位には深く感謝申し上げます。

昨年度の第10回東北放射線医療技術学術大会は、新型コロナウイルス感染拡大により残念ながら中止をいたしました。2年間、満を持して今大会開催を実行委員と準備してきました。

本大会のテーマは「雲外蒼天 ～協調、そして融合へ～」にいたしました。今までも、東日本大震災や原発事故の困難を乗り越えて来ました(まだ復興は終わっていませんが)。現在は、新型コロナウイルスの脅威にさらされていますが、人類の英知で乗り越えて行きましょう。困難を乗り越えれば、青空＝明るい未来が待っています。

協調は、各種医療関係者との協調＝チーム医療の推進となります。厚労省が打ち出した「タスク・シフト/シェア」では、医師の働き方改革の推進があります。静脈確保等は看護師業務とも重複しますが、お互いに協調してチーム医療の推進を図りましょう。また融合は、ITやAI・5G等の新技術を駆使した次世代医療を、上手く融合してより良い医療を目指して行きたいと考えます。

式典では、日本診療放射線技師会上田会長ならびに日本放射線技術学会白石代表理事にご挨拶をいただきました。その後に表彰となり、前回大会の大会長と実行委員長への感謝状授与、両団体の表彰等になりました。

特別講演は、福島県立医科大学放射線健康管理学講座の坪倉正治教授「福島原発事故後10年の住民の健康課題の現状と今後の情報発信」の題名で講演をお願いしました。福島での大会開催では、外せない問題であります。原発事故・放射線災害による10年間の経緯や問題点に関してご講演を賜りました。放射線被ばくのみでなく、住民の健康管理等も含めた県民に寄り添う真摯な姿勢に心打たれ感動しました。

また、ランチョンセミナーは2社で感染対策を徹底して、参加者全員が前を向き黙食での開催を行いました。ティータイムセミナーも2社で開催いたしました。当初は飲み物とお菓子を配布する予定でしたが、感染対策の観点から配布を見送り業者にも了解をいただきました。JART・JSRT共に良い企画を準備していただきました。興味あるシンポジウムに積極的に参加していただいた事と思います。一般演題数も東北各県から優秀な演題が73題と幅広く集まりました。実際の運用では、第3会場や第4会場ではWi-fiが繋がりにくい事もあり、大変ご迷惑をおかけしました。会場系の機転で、一般発表を急遽動画配信に切り替える事にいたしました。

企業展示では仮想空間を使う新しい試みを行いました。やや宣伝不足のためか集客に難がありましたが、仮想空間の理解や利用が広がれば変わると考えます。バナー広告は22社が参加していただきました。

懇親会も感染拡大を配慮してWeb開催にしましたが、来賓からお挨拶をいただき、カルトクイズでもそれなりに盛り上がったと思います。セッションが重複して聞けなかった演題・講演も、大会後にオンデマンド配信で視聴していただければと思います。

会場で講演を聞き、外の廊下で会員同士が気軽に立ち話を楽しんでいただけたかと思います。大会中、ハイブリッド開催は良かったと言う声を多く聞きました。皆さんに喜んでいただき本当に嬉しいです。最後に、本会を支える会員の皆様、日頃からご支援ご協力をいただいている協賛企業の皆様、村上実行委員長を始め実行委員・プログラム委員・運営にご協力したコセキの皆様、心より感謝を申し上げます。

